

第14回 日本病態栄養学会年次学術集会

担がん患者に対するソフィ -グルカン経口摂取による免疫賦活効果の検討

¹高知大学医学部臨床看護学、² (株) ソフィ、³土佐市立土佐市民病院、

⁴ (株) ヘルシースマイル、⁵ (株) 高南メディカル、

⁶高知大学医学部附属病院 栄養管理室

笹岡 千穂¹、田中 肇³、小松 郁子³、藤田 竜⁴、宮原 五彦⁵、尾仲 隆²、
伊與木美保⁶、宮本 美緒¹、北村亜希子¹、渡部 嘉哉¹、溝淵 俊二¹

【目的】我々は、食品添加物として認可されている、黒酵母由来の水溶性 β -1, 3-1, 6-グルカンを主成分とするソフィ -グルカン(S-G)の免疫賦活効果に関して研究を行っている。これまでにマウス、健常人において、S-Gを経口摂取することにより、特に細胞性免疫が誘導されることを見出している。現在、高知大学医学部と土佐市が中心になって『ソフィ -グルカンの高齢者及び疾病患者に対する有効性』に関する臨床試験を実施中である。今回は「担がん患者に対する免疫賦活効果の検討」の途中経過を報告する。

【方法】高知大学倫理委員会の承認のもと、担がん患者18名を対象とした。S-G 15mlを1日3回、3ヶ月間摂取し、摂取前、摂取1、2、3ヶ月後の計4回の採血を行い、NK活性を評価した。NK活性は密度勾配遠心法で得られた末梢血単核球を機能細胞、K562細胞を標的細胞として、E/T=50/1、⁵¹Cr放出試験で計測した。

【結果】S-G摂取前採血のNK活性を100%とした場合、1ヶ月後 $126.4 \pm 13.76\%$ (n=18)、2ヶ月後 $129.7 \pm 10.24\%$ (n=18)、3ヶ月後 $116.2 \pm 8.36\%$ (n=18)であった。前値に対するそれぞれのp値は1ヶ月後0.073、2ヶ月後0.010、3ヶ月後0.070であり、2ヶ月後は統計学的有意差が認められ、1ヶ月後、3ヶ月後でもNK活性の上昇傾向が認められた。

【結論】途中経過であるため18名と症例数は少ないものの、担がん患者でもマウス、健常人同様、NK活性の上昇が認められた。このことから担がん患者においても、S-G摂取により細胞性免疫が誘導されることが示唆された。一般的に担がん患者は液性免疫優位な状態であり、細胞性免疫優位な状態にコントロール出来れば病態の改善がなされるとの考え方がある。つまりS-G細胞性免疫が誘導できれば、がん治療の一助となり得る可能性がある。